

令和3年度のごみ量・決算などを報告



ID 1010813 岡ごみゼロ推進課(☎042-581-0444)

再びごみ量減少へ

- 1人1日当たりごみ量は616g(前年度633gから17g減少)で、ごみ改革以降最小
 - 多摩地域全体では総ごみ量が前年度比2.1%減った中、日野市は2.5%の減少
 - 可燃ごみは、人口増に関わらず微減を継続
 - 昨年度コロナ禍で大幅に増えた資源物の排出は再び減少
- ※ごみ・資源物量は、全体的に減少傾向(コロナ禍以前の水準に近づく)

多摩地域30市町村中2位

ごみ・資源物処理費用 令和3年度：約26億円(市民1人当たり13,987円)

①発生抑制費 約2.6億円

指定収集袋の製造・管理、市民の皆さまへの啓発(エコ、ごみ・資源分別カレンダーの発行)など

②収集運搬費 約11.1億円

可燃ごみ・不燃ごみ・プラスチック類ごみ・資源ごみなどの収集

③中間処理費 約8.8億円

ごみ処理施設・資源化施設の運営、資源ごみの選別など

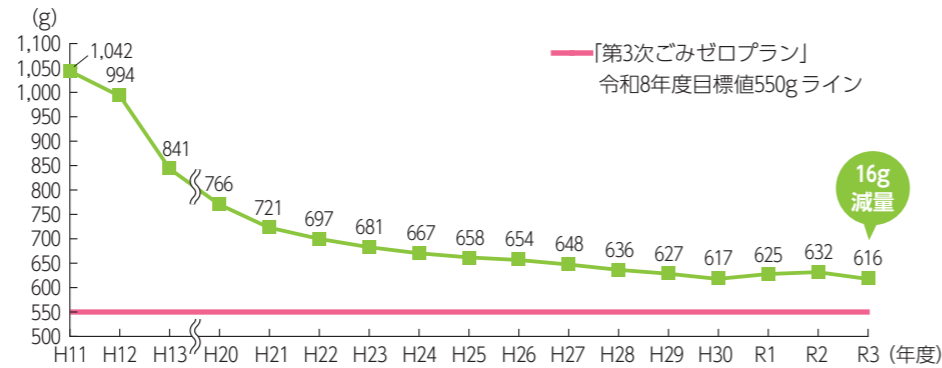
④最終処分費 約3.8億円

可燃ごみ焼却灰のエコセメント化をしている東京たま広域資源循環組合への負担金など

市民の皆さまにご負担いただいている指定ごみ袋代(約4億7千万円)や、資源物の売払(約9千万円)の収入以上に、ごみの処理や資源物のリサイクル処理に費用が掛かっています。資源ごみになるものを元から減らす「発生抑制」にご協力ください。

第3次ごみゼロプランの目標に向けて 毎日あと66gの減量を

コロナ禍の影響で2年続けて増えていた「市民1人1日当たり」の排出量は、令和3年度には減少に転じ、ごみ改革以降最少になりました。一方、第3次ごみゼロプランに掲げる目標値は令和8年度までに550gとなっており、あと66gの減量が必要です。市民の皆さまの適正な排出をお願いします。



ごみをなるべく出さないために特にお願いしたいこと

ごみ減量は5つのRで

- ① Refuse リフューズ
ごみになるものを持ち込まない(発生回避)
- ② Reduce リデュース
出るごみを減らす(発生抑制)
- ③ Reuse リユース
何度も使う(再使用)
- ④ Return リターン
「容器包装お返し大作戦」(返却)
- ⑤ Recycle リサイクル
資源物は有効活用(再生利用)

①使い捨て容器や過剰包装の製品はなるべく買わない
お出掛けの際は水筒を持参し、商品を購入する際にはできるだけシンプルな包装のものを選びましょう。

令和3年度 プラスチック類ごみ(水色の指定袋)に占める容器包装の量：1人1日37.6g(参考…ポテトチップス60g入りの袋が約6g)⇒少しでも減らしましょう！

②容器包装お返し大作戦へご協力を
スーパーなど、市内23店舗で実施しています。「令和5年版ごみ・資源分別カレンダー」に一覧を掲載しています。「お返し&お買い物」で、資源のリサイクルに取り組むお店を応援しましょう。

令和3年度 飲料容器(缶、ペットボトル、紙パック)の市回収量：1人1日13.2g(参考…アルミ缶(350ml缶)が約15g)⇒できるだけ店頭回収へ出しましょう！

③食べ物を大切に
食べられるのに捨てられるもったいない食品、食品ロス。「買わずに、作りすぎない、食べ残さない」で、捨てる食品を減らしましょう。

令和2年度 日本の食品ロス：1人1日113g(おにぎり1個程度の量)⇒少しでも減らしましょう！

どうしても出てしまう生ごみは、堆肥化して資源循環

生ごみ処理には、「ダンボールコンポスト」がおすすめ。



不要な物もリユースすれば、必要な方の元で再活用

「ジモティースポット日野」など、リユースができるお店へ！



ジモティースポット日野 HP▲

令和4年第1回日野市議会臨時会を終えて



ID 1022411 岡施設課(☎042-581-0443)

〈市長コメント〉

北川原公園予定地ごみ搬入路整備に関する住民訴訟判決に基づく市の債権を放棄する議案が審議された日野市議会臨時会が、10月28日に終わりました。

まずは、私自身の至らなから、市民の皆さま方に、ご迷惑をお掛けしましたことを心よりお詫び申し上げます。

本議会において、市民の皆さま方からさまざまな声をいただいている中、違法状態を生じさせた私の判断の責任について審議がなされました。その結果として、普通地方公共団体の民主的かつ実効的な行政運営の確保を旨とする地方自治法の趣旨を踏まえた上で、私個人に対する債権が放棄されることとなりました。

しかしながら、都市計画法違反や私自身の責任が否定されるものでは決してありません。本議会での

議論を受け、改めてその事実、責任を非常に重く受け止めております。

これらのことを踏まえて、北川原公園予定地へのごみ搬入路設置の違法状態を生じさせた判断の責任として、私の1年分の給料の減額をいたします。

今後、市民の皆さま方に今回の件について、直接、私自ら丁寧に説明してまいりますとともに、違法性解消に向けて、広く市民の皆さま方と一緒に協議を重ね、全身全霊この問題に立ち向かっていく決意を新たにしたところでございます。

今後の日野市および私の取り組みについて、ご理解、ご指導くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

日野市長 大坪 冬彦

(仮称)子ども包括支援センターみらいく 令和5年度末の開設を目指しています！



ID 1020552

岡子ども家庭支援センター(☎042-599-6670)

「すべての子どもの健やかな成長を切れ目なく支援する、子ども・家庭・地域の子育て機能の総合支援拠点」として、誰もが気軽に訪れやすく、親も子ども安心して過ごせる「心の拠り所」となる温かみのある施設を目指します。

日野市役所本庁舎の隣に建設中(神明1-13-2)



▲くい工事、材料搬入の様子(令和4年11月撮影)

人と環境にやさしいセンターを目指します

- 太陽光パネル・蓄電池を設置することでCO₂の排出量を抑え、未来の子どもたちにより良い環境をつなぎます。
- 周辺の豊かな緑と調和させるために、屋上緑化や多摩産材を内装の一部に使用することで、自然豊かな温かみのある施設・日野市の魅力を高める施設を目指します。

子育て世代や若者の声を子育てひろばのデザインに反映

(仮称)子ども包括支援センターみらいくの3階に、乳幼児と保護者が一緒に過ごせる子育てひろばを設置します。11月3日に、子育てひろば利用者、職員、実践女子大学の幼児保育を学んでいる学生などで、子育てひろばのデザイン(レイアウトや遊具など)の検討を開始しました。検討の場では「誰でも来られる」「あたたかい」「交流」「体を使って遊べる」「気軽に(障害の有無に関わらず)」など、多くの意見が交わされました。乳幼児と保護者目線の子育てひろばとするため、今後も検討を続けていきます。



▲子育て世代、学生などが子育てひろばをデザインしている様子